

おおいたツーリズム大学 第1回オンライン講座 発言要旨

日 時：6月18日15時～16時15分

議題：飲食業や宿泊業がコロナ禍で生き残るためには？

(別府の取組・現状を参考に検討する)

参加者	発言要旨
宮井 智氏 (第12期生/Alliance Social Share Office Beppu)	<ul style="list-style-type: none">・業態変更を余儀なくされている店舗もある (飲食店が持ち帰りを始めたり、通販に対応できるように設備を整えたり)・タクシー業界も厳しい状況である(9時以降に乗る方が減少したらしい)・飲食・宿泊を支えることがタクシーも含め、色んな業種を救うことにもなるのでは
梯 哲哉氏 (オット・エ・セツテ大分)	<ul style="list-style-type: none">・コロナが流行り出した頃から地震の時同様に予約がゼロになった・やむなく休業したが、自分が休業すると鶏肉・豚肉・野菜など生産者が厳しい状態に・1次産業を支援するためにオーバで弁当の販売を始めた・弁当は衛生管理も大変でやめようと思っているが、1次産業を助ける取組は続けて行く予定・店の構造変更も検討している(間仕切りがないので)
花田 潤也氏 (In Bloom Beppu)	<ul style="list-style-type: none">・ゲストハウスを行っていて、泊まっていた方を対象に別府を案内するのが定着していたので、オンラインガイドを開始したいと動いている (もともと宿は手段で、おもてなしをしたいと考えていた)・他の地域でもあるようにオンライン宿泊を開始する(7月上旬から開始)・そこで、別府・大分県の魅力を発信し後々のリピーターになってもらいたい・近場でも別府の魅力を知らない方が多いので、近隣県にアプローチをして誘客に繋げたい(熊本を中心にアプローチしている)
鶴田 宏和氏 (第11期生/ホテル ニューツルタ)	<ul style="list-style-type: none">・5月の売上がゼロになることで、宿泊ビジネスモデルの構造が丸裸になった・宿泊業は空間時間の提供になるのだが、オンライン飲み会などの概念ができてしまった(宴会場の場の提供がいらなくなってしまった)・旅の概念も変わり、そこに行くことだけが旅行ではなくなった。その土地の景色、食べ物はそこでしか味わえないものであったが、お取り寄せなどを通じて感じるできるようになった・その土地のものを着たり、使ったり、実際に来ていなくてもそれは観光になり得る。・宿泊業は泊まる・食べるにフォーカスしすぎているので、着る観光・使う観光を積極的に宿泊業が取り入れるアプローチも必要なのは・宿のクオリティーを高めるだけでなく、別府ないしは大分の文化をプロダクトに落とし込んで届けていくこともビジネスになり得る(取りかかろうとしている)・嬉野の和田屋別荘は、オフィスの誘致などの新しいビジネスも始めている・宿泊業を、不動産業と飲食業と生活関連サービス業に分けて考えると、それぞれでビジネスが展開できる可能性がある
学長・チューター	<ul style="list-style-type: none">・ここで新しいものに取組むきっかけにしないと、ただただ赤字で嘆くだけになる・今までは、地元の人が一番地元の観光業にお金を落としていなかった訳だが、県の補助などがきっかけで地元へ足を運ぶことになり、地域を取り込む新しいきっかけになっている・最近の行動自粛などで、本当の意味で休息の有り難みなどもできてきているのでは。そういった方にアピールするチャンスが来ているのではないかと・新しい各種の取組が、顧客のデータを集めることに繋がっている。次に似たような状況になればその人たちにアプローチをかけられる。また、ターゲット層を絞ることができる